

目次

凡 例

I あ の 世	3
II 妖 怪	31
III 信濃の奇談	43
IV う ら な い	59
展示資料一覧	66
主な参考文献 協力者一覧	68

凡 例

1. 本書は平成15年4月19日から6月1日までを会期とする「あの世・妖怪—信州異界万華鏡—」の展示解説図録である。
2. 本展覧会は、平成13年夏に国立歴史民俗博物館で開催された「異界万華鏡」展の展示構成に準拠し、信州の事例を加えて構成している。本図録ではこの内の信州の事例を中心に構成した。
3. 本展覧会は当館と読売新聞社東京本社が主催し、国立歴史民俗博物館の協力をいただいた。
4. 図録掲載資料は展示資料の一部である。また、会期中に一部展示替えを行う。
5. 資料名の前につけた●は重要文化財、◎は県指定文化財、○は市指定文化財を示す。
6. 本文中の敬称はすべて省略した。
7. 本図録の執筆は本館学芸員降幡浩樹、細井雄次郎が担当し、館員がこれを補助した。
8. 本書に掲載した写真は、本館降幡浩樹、細井雄次郎が撮影した。また、下記の機関などより写真のご提供を受けた（五十音順・敬称略）。
安曇村橋場公民館 安城市歴史博物館 飯山市教育委員会 京都大学
附属図書館 小諸市商工観光課 信濃毎日新聞社 真正極楽寺 善光
寺事務局 善光寺大勧進 典厩寺 東京国立博物館 長野県立歴史館
法音寺 御代田町教育委員会 六道珍皇寺

はじめに

異界いかいという言葉は耳慣れない言葉かもしれませんが。一般には私たちが生活している日常世界とは別の世界、自分達が認識している時空間の外側の世界のことをいいます。例えば生前の悪事によって様々な責苦を受ける地獄とか、十万億土の彼方あそこにあって一切の苦しみがなくさまざまな楽しみが存在する極楽は、広く知られている異界といえます。また、木曾郡ねぞめの寢覚の床に伝わる浦島太郎の伝説に見られる海底の龍宮も異界の一つといえるでしょう。

人間は太古の昔から人知では解明できない不思議な出来事に出くわすと、そこに架空の生き物である「妖怪ようかい」や、「異界」を創りだし、その現象を理解しようとしてきました。人間が考える苦しみや不安、そして畏怖の心が妖怪や異界を生み出してきたといえるでしょう。

第1章では、実際に見ることの出来ない死後の世界を「あの世」としてどのように想定して生活してきたのか、生者と死者との関係に焦点をあてます。

第2章では、妖怪を素材にして異界に向けられた想像力について考えます。妖怪や幽霊がどのようにイメージされ、表現されたのか、百鬼夜行絵巻などをもとに考えます。

第3章では、信濃の奇談として県内に伝わる様々な伝説、伝承を取り上げます。

第4章では、占いという手段によって人知の及ばない世界をどのように予測しようとしてきたのか、その諸相を展示します。古代日本において形成された陰陽道おんみょうや安倍晴明などを取り上げます。

これらを通して、日本人の心の奥底にある恐れとあこがれを多面的に探ります。

科学の進歩によって得た膨大な知識や物質的な豊かさにストレスを感じている現代の私たちにとって、異界の扉をくぐり、空想の妖怪にふれあうことで、忘れかけていた「心の豊かさ」を感じていただければ幸いです。

最後になりましたが、本展覧会開催にあたり、貴重な所蔵品をご出品いただきました所蔵者の方々はじめ、ご協力を賜りました関係者各位に厚くお礼申し上げます。

平成15年4月19日

長野市立博物館